

学校教育目標		夢や目標をもち、自己実現をめざす児童・生徒の育成					ミッション 児童生徒と保護者・地域との絆を深める学校となる					ビジョン 地域に信頼され、期待に応える吉和小中一貫教育活動の推進				
重点	中期(3年間)経営目標	短期(1年間)経営目標	目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	評価指標 (効果を見取る目安)	目標値%	目 標	自己評価			自己評価			結果と課題の分析	改善方策		
							10月			2月						
							実施値	達成値	評価	実施値	達成値	評価				
小中一貫で取り組む重要課題 確かな学力	学び合う集団づくり(学力向上)	全体の指標		「基礎・基本」定着状況調査 教科平均が通過率70%以上の児童生徒の割合	75%	中学生： 9/12 小学生： 7/9 (教科数×人数)	71%	95%	B	71%	95%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「基礎・基本」定着状況調査においては、特に、小学校の国語、中学校も国語に課題がある。小学校では、「叙述を基にした想像」などに課題があり、中学校では「登場人物の尋常把握」や「主語述語の関係」などに課題がある。</li> <li>・全国学力・学習状況調査では、小学校の算数に課題がある。特に「量と測定」に課題がある。中学校は、国語に課題があり特に「話すこと、聞くこと」に課題がある。</li> <li>・廿日市市学力状況調査では、国語に課題があり、特に「調べた内容を発表する」に課題がある。</li> <li>・CRTにおいて、全国平均以上の児童生徒の割合は4%上昇した。しかし、45%であることは課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通過率の低かった課題のある単元や分野を個別に明らかにしていく。</li> <li>・個別に指導できる時間を確保していく。(単元のまとめの時間などを利用して個別の課題に取り組みさせるなど)</li> <li>・課題発見解決学習などを通して日常生活と関連のある内容にできる限り取り組むことでB問題のような発展的な問題に対応していく。</li> <li>・ICT機器の有効活用できる授業の工夫についての研修を進める。</li> </ul>		
				全国学力・学習状況調査 教科平均が通過率 A問題70%以上の児童生徒の割合 B問題50%以上の児童生徒の割合	75%	中学生： 24/32 小学生： 12/16 (教科数×人数)	54%	77%	C	54%	77%	C				
				廿日市市学力状況調査 全国平均以上の児童生徒の割合	70%	小学生： 10/14 (教科数×人数)				70%	100%	A				
				CRT(標準学力検査) 全国平均以上の児童生徒の割合	70%	小中学生： 22/32 (小2~中2)	41%	59%	C	45%	64%	C				
		授業改善 基礎力と活 用力の向上	「よしわ学びのサイクル」を意識した授業づくり(説明力の向上) 【重点項目】	教職員アンケート 「よしわ学びのサイクル」を意識した教職員	100%	11人/11人	91%	91%	B	100%	100%	B			<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業において「よしわ学びのサイクル」を意識した教職員は、100%に増加したが、自分を高められた児童生徒の割合は89%と変化が見られなかった。問題を解けたときの達成感を十分に感じさせられていないことも課題の一つである。</li> <li>・「わかる・できる」児童生徒に向けて授業改善できた教職員の割合が83%から80%へと減少したことは大きな課題である。教材研究をできる時間の確保に大きな課題がある。</li> <li>・CRTにおいて、全国平均を基準としたときの通過率が上昇した児童生徒の割合は66%であった。ICT機器等の活用によっても効果があったと考えられる。</li> <li>・家庭学習をやりきった児童生徒の割合は上昇した。中学校で宿題をやりきった生徒を表彰していたが、小学校も表彰するようにしたことで児童の意欲につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が達成感を得るために、勉強の達成度を何らかの形で“見える化”することやタイムリーな肯定的評価を繰り返す。</li> <li>・教材開発、教材研究の時間確保に向けて行事を精選したり、会議等の簡略化の方法を検討していく。</li> <li>・ICT機器の活用に向けた研修を進める。他校等の実践例を参考に良い授業づくりに向けて研修を実施する。</li> <li>・家庭学習をやりきる児童生徒の割合100%を目指して、今年度同様に表彰等を実施し、児童生徒の意欲づけを行うと共に家庭との連携を密にしていきたい。</li> </ul>
				児童生徒アンケート 授業において「よしわ学びのサイクル」を意識し、自分を高められた児童生徒の割合	100%	41人/41人	89%	89%		89%	89%					
		昨年度重点 課題の克服	小学校算数科、中学校数学科、英語科における授業改善	教職員アンケート 「わかる・できる」児童生徒に向けて授業改善できた教職員の割合	100%	11人/11人	83%	83%	B	80%	80%	B				
				CRTにおいて、全国平均を基準としたときの通過率が上昇した児童生徒の割合	70%	29人/41人				66%	94%					
		家庭学習の 習慣化	〇家庭学習の表彰 決められた課題をやりきった児童生徒	家庭学習を100%やりきった児童生徒の割合	100%	41人/41人	78%	78%	B	89%	89%	B				
		豊かな心の育成	認め合い・高め合う集団づくり	よりよい人間関係づくり	ソーシャルスキルの充実	アセス 向社会的スキル適応群(>50)の児童生徒の割合	100%	31人/31人	60%	60%	C	60%				
よりよい人間関係づくり	道徳教育の充実			教職員アンケート 児童生徒が考えを議論したりしたくなるような導入・発問の工夫、またはオリジナル教材の開発ができた教職員の割合	100%	11人/11人	80%	80%	B	40%	40%	C				
自分で考え、責任をもって行動できる児童生徒の育成	学校行事や異年齢集団活動等での目標達成に向けた取組の充実			児童生徒アンケート 集団の目標や自分の目標を達成した児童生徒の割合	100%	41人/41人	92%	92%	B	92%	92%	B				